

レスキューモードの起動方法

NEC Express サーバ
Express5800/ftサーバ シリーズ

2026年10月 初版

目 次

1. はじめに.....	2
(1) 対象機種	2
(2) 対象ディストリビューション	2
(3) 注意事項	2
2. 事前準備.....	3
(1) ブートメディアの用意.....	3
3. レスキューモードの起動方法	4
4. レスキューモードの解除方法	12
5. 商標等	13
6. 改版履歴.....	14

1. はじめに

本手順書は、高可用性サーバ(R31Aa,R32Aa) Linux モデルでレスキューモードを起動する方法を説明した手順書です。

[免責事項]

本手順書はお客様の利便性向上の為に公開しております。掲載内容の妥当性や正確性については細心の注意を払っておりますが、本手順書をご利用になることにより生じるいかなる結果に対しても、弊社では一切保証しておりません。また、ハードウェアの全てのパターンについて動作検証を行っているものではなく、機種・構成によっては本手順が適用できないなどの制限が生じることがあります。ご利用はお客様の責任において行っていただきますよう、予めご了承ください。

(1) 対象機種

Express5800/R31Aa-E2(2nd-Gen)、Express5800/R32Aa-M2(2nd-Gen)、
Express5800/R32Aa-H2(2nd-Gen)

(2) 対象ディストリビューション

略称	ディストリビューション名
RHEL9.6	Red Hat Enterprise Linux 9.6 (x86_64)

(3) 注意事項

- 本手順書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本手順書の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
- 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- レスキューモード起動中は、サーバ業務を継続することはできません。

2. 事前準備

予め準備して頂きたい事項について、ご説明致します。

(1) ブートメディアの用意

本手順書では、レスキューモードで作業を行うため、OS インストール時に使用するブートメディア(ISO ファイル)を用意してください。リモート KVM 機能で利用するため、DVD 媒体は不要です。

3. レスキューモードの起動方法

- (1) システムを停止します。

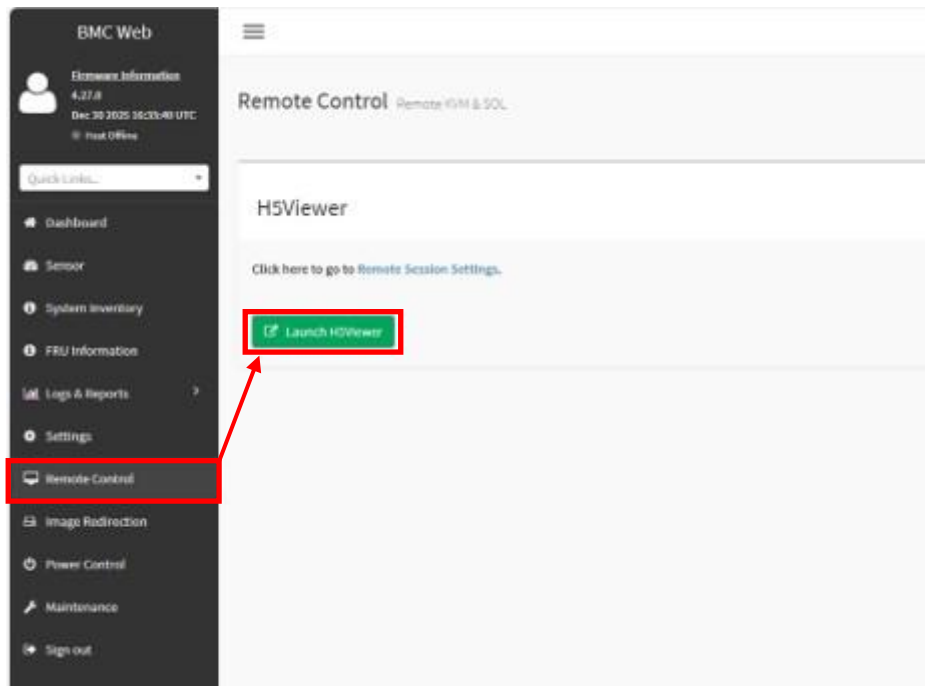
ztC Endurance コンソールから、“Shutdown” ボタンを押して、システムを停止します。
各モジュールの LED が緑色で点滅していることを確認します。

- (2) モジュール B の BMC Web にログインします。

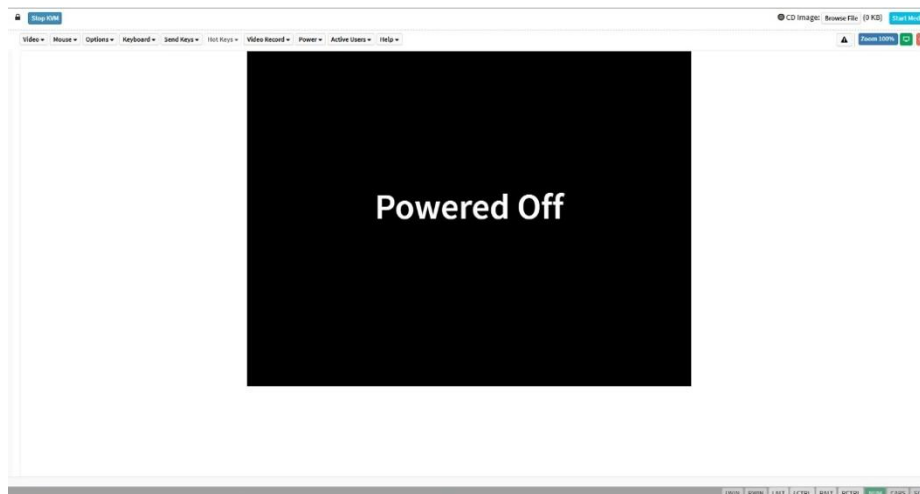
URL は、 [https://\[モジュール B の IPv6 アドレス\]](https://[モジュール B の IPv6 アドレス]) です。



- (3) “Remote Control” にある “Launch H5Viewer” ボタンを押します。



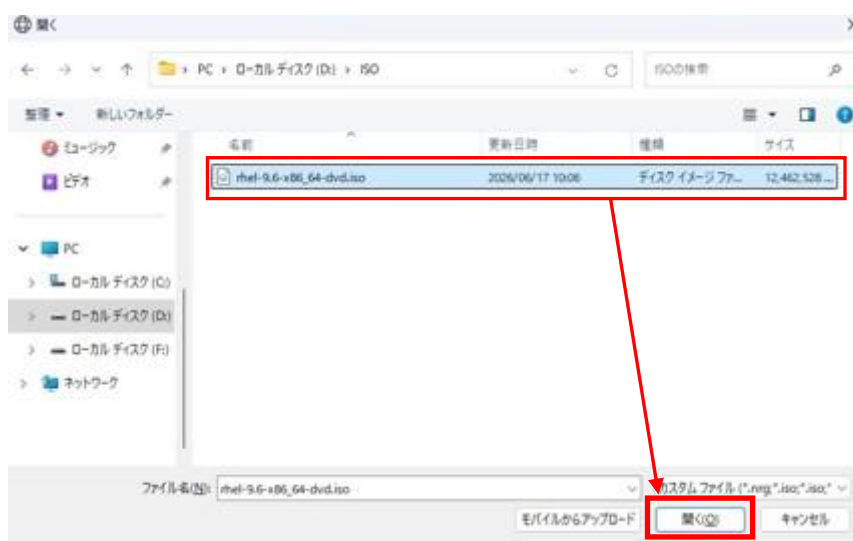
(4) リモート KVM の画面が起動します。



(5) 画面の右上を拡大した図です。“Browse File” ボタンを押します。



(6) RHEL の ISO イメージを指定して「開く」を押します。



- (7) 「Media Boost」のチェックが表示されますので、こちらをチェックしてから、「Start Media」ボタンを押します。

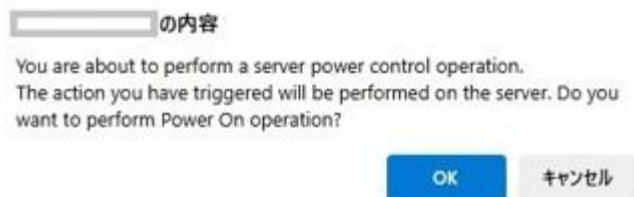


「Start Media」ボタンを押した後は「Stop Media」ボタンに変わります。

- (8) 電源ボタンを押します。



画面の上部で次の確認メッセージが出ますので、「OK」を押します。

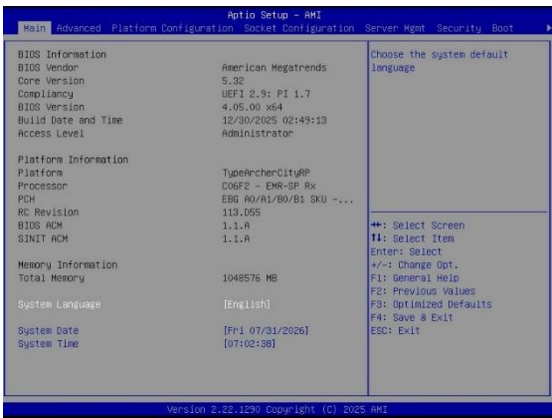


サーバに反応が無い場合、再度電源ボタンを押して、電源を投入します。

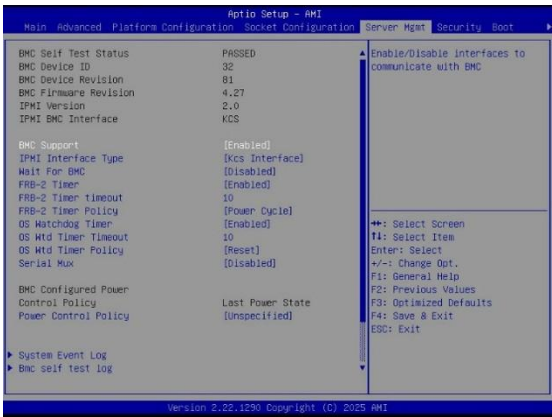
- (9) BIOS の設定 (OS Watchdog Timer) をチェックします。
電源投入後、次の画面で「DEL」キーまたは「ESC」を入力します。



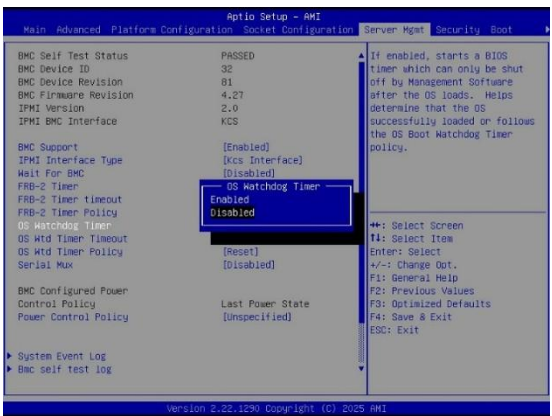
BIOS 画面が現れます。



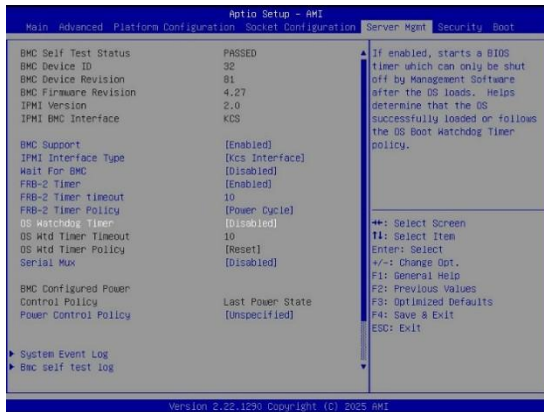
右側の「Server Mgmt」へ移動します。



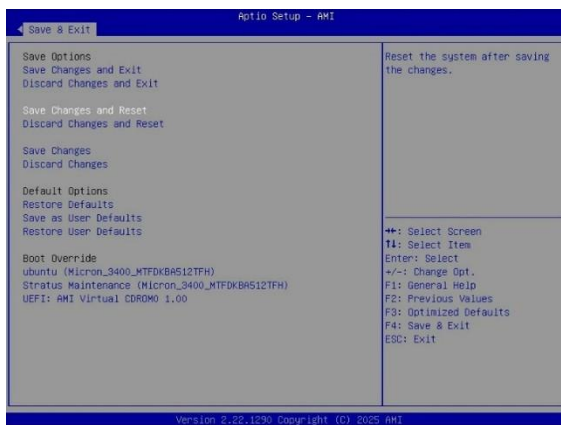
下側の「OS Watchdog Timer」に移動します。



「OS Watchdog Timer」が 'Disabled' になっていることを確認します。
 'Enabled' になっている場合は、'Disabled' に変更してください。



「Save & Exit」に移動し、「Save Changes and Reset」より 'Yes' を選択して、BIOS 画面を出ます。



- (10) レスキューモードを起動します。
 次の画面をいったん通過します。



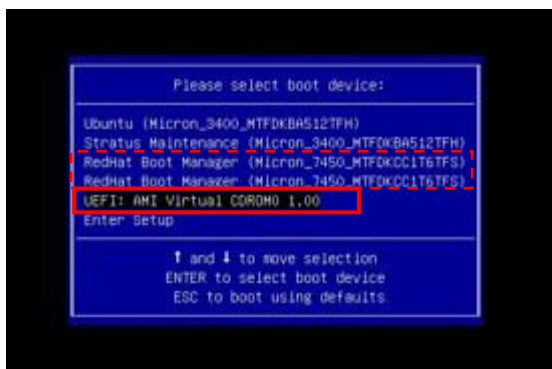
続いて StandbyOS が一度起動しますが、間もなく再起動します。



次の画面で「F7」キーを入力します。



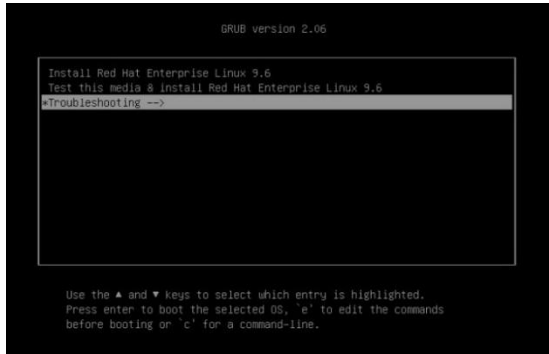
ブートデバイスの一覧に対象ディスクデバイスが存在することを確認します。



上図の場合、“RedHat Boot Manager ” の 2 個のデバイスが該当します。

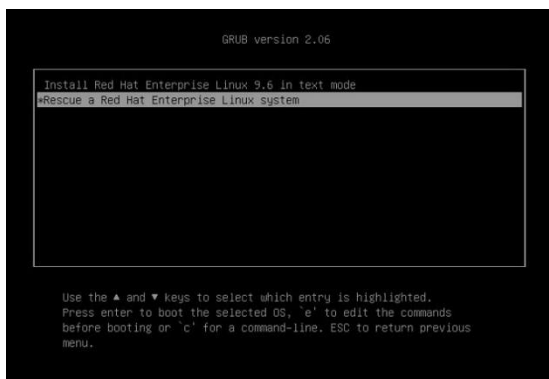
※StandbyOS を一度起動通過することなく「F7」キーを押した場合、システムがディスクデバイスを認識しません。その場合、「Stratus Maintenance」を選択、StandbyOS にログイン後、reboot コマンドを実行してやり直してください。

ブートデバイスの一覧から、「UEFI: AMI Virtual CDROM 1.00」を選択すると、OS 媒体が起動しますので、一覧から「Troubleshooting」を選択します。

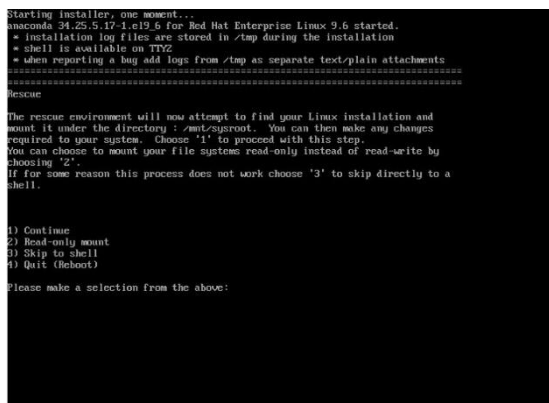


※約 1 分間キー操作を行わなかった場合は自動で Install 処理が開始されますので、画面表示後 1 分以内に操作を行ってください。
Install 処理が開始された場合は、「Ctrl」+「Alt」+「Delete」キーを押下して、再度システムを起動してください。

続いて「Rescue a Red Hat Enterprise Linux System」を選択します。



レスキューモードで起動すると、次の画面が現れます。



自動マウントする場合は"1"を、自動マウントしない場合は"3"を入力します。

- ・ 自動マウントする場合、既存のパーティションは、/mnt/sysimage ディレクトリ下にマウントされます。
- ・ 3 番を選択して "Please press ENTER to get a shell: " で Enter を押すと、bash のコマンドプロンプトになります。

```
Starting installer, one moment...
anaconda 34.25.5.12-1.el9.6 for Red Hat Enterprise Linux 9.6 started.
* Installation log files are stored in /tmp during the installation
* shell is available on TTY2
* when reporting a bug add logs from /tmp as separate text/plain attachments
=====
rescue
=====
The rescue environment will now attempt to find your Linux installation and
mount it under the directory : /mnt/sysroot. You can then make any changes
required to your system. Choose '1' to proceed with this step.
You can choose to mount your file systems read-only instead of read-write by
choosing '2'.
If for some reason this process does not work choose '3' to skip directly to a
shell.

1) Continue
2) Read-only mount
3) Skip to shell
4) Quit (Default)

Please make a selection from the above: 3
=====
Rescue Shell
=====
Not mounting the system.
When finished, please exit from the shell and your system will reboot.

Please press ENTER to get a shell:
bash-5.1#
bash-5.1#
bash-5.1#
```

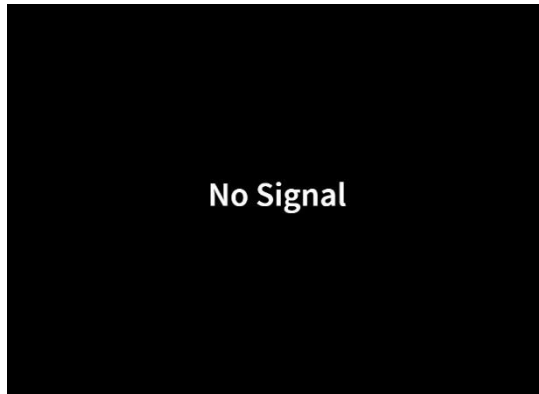
レスキューモードでは、US キーボード、日本語 106 キーボードが利用可能です。
レスキューモード起動時点で、キーボードタイプは英語配列となっています。
日本語 106 キーボードを使用している場合、`localectl` コマンドにて、キーボードタイプを
日本語配列に変更してください。
bash-5.1# `localectl set-keymap jp106`

4. レスキューモードの解除方法

- (1) コマンドプロンプトで "reboot" と入力し、Enter キーを押下します。

```
sh-5.1# reboot
```

- (2) レスキューモード終了後、シャットダウンが実行され、しばらくすると 'No Signal' が表示されます。



このタイミングで、「Stop Media」を押します。



インストールメディアが取り外されて、再びレスキューモードが起動されなくなります。

5. 商標等

Penguin Solutions ロゴ, Stratus, Stratus ztC Endurance, Smart Exchange, Automated Uptime Layer with Smart Exchange は Penguin Solutions, Inc. のグループ企業の登録商標または商標です。

Linux は, Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat、および Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の登録商標です。

Ubuntu は、Canonical Ltd.の登録商標です。

Intel, Xeon は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

6. 改版履歴

2026 年 10 月 新規作成

Copyright (C) NEC Corporation 2026. All rights reserved.